

はなむけの言葉



総長・学長

ながい
永井 かずゆき
和之

おいて、感慨を持ってほしいと願うものであります。感慨持つ人は、悔いのない大学生活をおくったからであります。そのような卒業生には、心からのお慶びを申し上げたい。そして、これからの人生が豊かなものとなることを願っています。

また、感慨持たない卒業生、悔いを残している卒業生諸君に言いたい。人生に悔いは付き物であると。とり

わけ若い頃の人生には悔いは付き物というより、悔いばかりかも知れないとも思う。しかし、同じ悔いはしないのが、知恵というものだと考えています。悔いの数だけ知恵を身につけていけば、君たちの人生は本当に充実した、それこそ豊かなものとなるでしょう。

でも、悔いの数だけ知恵を身につけなくとも、悔いの多い人生も、年を経るほどに思い出の多い人生となるというの、これも人生のおもしろいところかも知れません。これは、既に本学を卒業して、40年を経た私

自身の感慨なのかも知れません。実際は、卒業後の年数を経るほどに、同じ悔いを繰り返しつつ、知恵を身につけない我が身を省みつつ、これも人生と慰めているのかも知れません。

と、このように卒業生諸君が、どのタイプであっても、結局、人生はおもしろく、味わってみる価値のあるものと考えています。卒業生諸君、君たちの人生はこれからです。諸君には、君たちの心を大きく開き、これからの人生において出会う全てを吸収し、存分に人生を楽しんでください。そして、大きな人生を歩んで欲しい。そのような君たちの人生に幸多きことを願っています。

卒業おめでとう。

卒業生諸君、今 諸君の青春を過ごした母校中央大学を卒業するにあたって、どのような夢や希望を持っていますか。将来に対する意気込みはどうですか。

しかし、全ての卒業生が卒業にあたって夢や希望、そして意気込みをもっているとは限らないとも言えると思います。そのような質問すること自体が適切ではないかも知れませんが、ただ、これだけは言えます。人生の折々に、節々に、自分の来し方に想いをやり、そして、将来に思い

を馳せることは、その人間にとって、生き様を丈夫にし、大地に根ざす契機となるものと考えています。無為に人生を流すだけではなく、流されるだけではなく、人生を歩む人は、人生の節々を活かしていると思えます。

そこで、卒業生に尋ねるのです、今、君たちは何を考えているのか、君たちの心に去来するものは何かと。

君たちをおくる教職員を代表して、そして、君たちの保護者の皆様の気持ちを代弁して言えば、人生の節に



卒業おめでとうございます。



法学部長

井上

あきら

卒業おめでとうございます。

百年に一度といわれる大不況の中の卒業、前途多難を思わせるものがありますが、諸君たちはまだ幸せなのかもしれません。中央大学に關しては、巷間噂されていたほどの内定取り消しはなく、多くの諸君が順調に就職先を決めて、卒業していきます。しかし、新四年生は大氷河期に入りそうです。各社は新入社員を採用予定数すら決められず、就職戦線にはほとんど動きが見られません。彼らと比べれば、就職できただけでも善しとしなければなりません。とはいえ、今回の不況の荒波は、わが国のトップ企業をも飲み込むほどのものであつて、誰ひとりとして、安閑としていることはできません。気を引き締めて、旅の衣を整えて下さい。

ところで、大学卒業は、「学び」

の終点ではなく、「学び」の出発点であることを肝に銘じて下さい。大学では、ものの考え方、法律問題でいえば、問題への取り組み方を学んだのであつて、問題の答えを学んだのではないのです。答えは、皆さんが実社会で問題にぶつかる中で、大学で学んだ取り組み方を思い出しながら、自分で解決策を模索し見つけていくものなのです。その意味で、これからも「学び」は継続するのです。大学で学んだことは、実社会で直面する問題の解決には直ちに役に立つということはないかもしれませんが、大学で身につけた分析力、思考力が生きてくるはずで、自分を信じて力強く足を踏み出して下さい。お別れです。今の喜びを嘯みしめながら、新しい世界に飛び立つて下さい。

学びの連続



経済学部長

まつまる
松丸
かずお
和夫

ご卒業おめでとうございます。今まさに経済学部での学びを終え、次のステージへと羽ばたかんとする卒業生のみなさんに心からお祝いを申し上げます。

今日、新たな門出をされる皆さんに考えていただきたいことが二つあります。一つは、自分は大学で何身につけたのか。二つめは、これから自分は何をしていくのかということです。

大学を卒業するということは、本人のみならず、ご父母やご親族にとつても喜びです。しかし同時に、社会には大学を卒業しないで働き、生活している人々が多数います。大学の「大衆化」が進み、今日では大学卒業の学士号それ自体希少価値の小さいものとなりました。しかし、4年間の大学生活で何も身につけなかったとしたらそこに何の意味があ

りましょう。私は、大学卒業生にもとめられる資質の一つとして、自己分析を客観的におこない、環境の変化をきちんと認識できる知的能力が大切だと考えます。そして周囲に流されるのではなく、流れを作り出す能力を養ってほしいのです。

大学の外の社会では、みなさんの想像を超える厳しい試練が待ち受けています。しかし、どんなに困難なときでも冷静に事態を分析し、最も合理的な選択ができるためには、ねばり強さが必要です。

さて、このようにいわれて「不安」を感じる人がいたら、それは正常な感性の持ち主であることの証です。大学では身につけ得なかったことを負の財産と考えずに、「だからやるべきことがたくさんある」と前向きに取り組んでいただきたいと思えます。人の一生は、学びの連続です。どうか活躍ください。

自分を信じて、前向きに



商学部長

いしかわ
石川 鉄郎

商学部の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんにとって、中央大学商学部での学生生活はいかがでしたか。何を学びましたか。自分はこれを学んだ、あるいは自分の専門はこれだといえることがありますか。また、どんな出来事がありましたか。どんな出会いがありましたか。

おそらく皆さんは、中央大学商学部でいろんなことを学んだはずですが、嬉しいこと、楽しいこと、悲しいこと、悔しいことなど、いろいろな出来事があったことでしょう。さらには、さまざまな人との出会いもあったと思います。卒業にあたり、これまでの学生生活をいま一度振り返ってみてください。

これまでの学生生活を振り返るとき、ほぼ満足のいく学生生活を送ることができたと思う人もいれば、やり残したことが多かったと思う人も

いるでしょう。しかし、どちらの場合であっても、皆さんは、確かに人生の中で最もみずみずしい時を過ごしたのです。そして、そのようなみずみずしい時を過ごすことによって、皆さんは確かに成長してきたのです。

今日、皆さんは中央大学商学部を卒業します。卒業と同時に、明日からは、社会人あるいは職業人として新たにスタートを切ることになりま。これからの人生は長く、今まで経験したことのない大きな困難に直面することもあるでしょう。また、学生時代とは異なり、自立や責任も強く求められることになると思いますが、しかし、過度の不安は不要です。程よい謙虚さを持ちつつ、中央大学商学部での学生生活を通じて成長してきた自分を信じて、前向きに今後の人生にチャレンジしていったらいいと思います。

最後に、皆さんの今後の人生が幸運に満ちたものであることを、心よりお祈りいたします。グッド・ラック。それでは、さようなら。

自主的な研究体験を自信の源泉に



理工学部長

たぐち
田口 東

卒業おめでとうございます。皆さんが卒業を迎える最後の1年間で大きく世界中の経済情勢が変わりました。最初は投資・金融に限定されていたように見えたものが、私たちに

関係の深い製造業にも深刻な影響を及ぼしています。グローバル化という名前でも知られてきたモデルが壊れてしまいました。混乱の先に現れるモデルを見通す力は私にはありません、皆さんが新しい環境の中で作り出していくものであると思います。そのような難しい状況の中では、将来を見通して、自分がどのようなポジションで活躍しているかという姿勢をイメージできることが大切であると思います。そして、その将来像は、皆さんが身につけてきた「実力」に裏付けられたものであって欲しいと願っています。

その実力とは何でしょうか。まず、専門分野の知識、次にそれを適

切に使う力です。それには、解決しようとする課題の本質は何かをとらえること、問題の構造を見いだす大局面観が求められます。そして、新しい課題に対して、自分自身のユニークな解を提案し続ける環境を維持する努力です。大変に困難なことを要望しているようです。しかし自信を持って、自分の考えを進めてください。そして、その自信の核として、それぞれの専門分野で自分の考えを研究論文にまとめたという知的な体験を置いてください。研究室での議論やアドバイスの、外の研究発表会における交流の中で研究を進めてきたことは、貴重な体験に違いありません。そのような自主的な研究体験は、ここでしか得られない貴重な財産でありますし、それを経験しなかった人に対する大きな優位点となるでしょう。このような知的な体力が身につけていることに大きな自信を持ち、新しい課題、新しい分野に果敢に挑戦されることを期待しています。

切に使う力です。それには、解決しようとする課題の本質は何かをとらえること、問題の構造を見いだす大局面観が求められます。そして、新しい課題に対して、自分自身のユニークな解を提案し続ける環境を維持する努力です。大変に困難なことを要望しているようです。しかし自信を持って、自分の考えを進めてください。そして、その自信の核として、それぞれの専門分野で自分の考えを研究論文にまとめたという知的な体験を置いてください。研究室での議論やアドバイスの、外の研究発表会における交流の中で研究を進めてきたことは、貴重な体験に違いありません。そのような自主的な研究体験は、ここでしか得られない貴重な財産でありますし、それを経験しなかった人に対する大きな優位点となるでしょう。このような知的な体力が身につけていることに大きな自信を持ち、新しい課題、新しい分野に果敢に挑戦されることを期待しています。

憂患に生きる



文学部長

 うの
 宇野
 しげひこ
 茂彦

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今年卒業の皆さんはかなり緊張感を持って卒業されるのではないかと思います。昨年の後半から世界経済が極端に悪化して未曾有の不況と政権担当者までが発言する世の中となつてしまいました。これでは従来にもまして不安がつるのでないかと思えます。

しかし、かつてバブル経済で浮れていたのは、あらゆる意味で人の生き方の破壊であったのではないかと反省させられますし、むしろまっとうな世の中になると考えた方がいいでしょう。孟子は「憂患に生きて、安楽に死す」と云っています。

ところで、経済界の要職にある人が日本経済は一億人の規模がないと維持できない、だから一千万人からの移民の受入れが必要だなどという

これは日本の少子化の問題と経済との関係ですが、人の幸福というのはそのような経済規模にあるのでしょうか。簡単に移民と云いますが文化の異なる人々の受入れはさまざまな軋轢を生みますし、さらに受入れたなら平等に待遇しなければならず、また新たな負担が生じます。

もちろん人口減少に対応する政策は必要で、その叡智が求められます。江戸時代は三千万人の世界でした。現代は技術革新もあり、その倍くらいはこの国土でも養えるかとも思いますが、そのような人口になってゆつたりと暮らせる世の中を生み出して欲しいものです。

人口が増えることより減ることのほうが、対処はやさしいという発想もあるはずですが、皆さんがそういう世の中を築くべく活動されることを期待します。どうぞお元気で。

自分と総政を語る



総合政策学部長

 よこやま
 横山
 あきら
 彰

卒業おめでとうございます。

皆さんは、学部創立15周年記念の文芸書『学生のための人生羅針盤—どう学び、どう働くのか—』と記念マグカップを手に卒業していきます。先輩たちには、そうした特別な卒業記念はありませんでした。この点で、皆さんは「特別な」卒業生です。さらに、多くの皆さんは、アメリカ発の金融危機による景気後退が深刻化する前に進路先を決定できました。これから進路先を決めようとしている後輩たちは、大変厳しい事態に直面しています。この点でも、皆さんは「特別な」卒業生です。

自分と総政を語る時、皆さんは先輩や後輩とは違い幸運な状況にあることを自覚してください。皆さんが自分を語るとき、総政での4年にも及ぶ学生生活は掛替えのない要素

になります。また皆さんが総政を語る時、自分が総政で学んだことや体験したことや親しくなった友人などについて、自分の窓から語るわけですから、自分という存在は掛替えのない要素になります。

皆さんは、いまから総政とは違う社会に所属して、その社会の中で自分を他者に語るようになります。そのとき、総政時代の自分をどう語るのでしょうか。

この問い掛けに対する回答の手がかりは、記念文芸書の中にあります。総政とは違う社会にいる先輩たちが自分と総政をどう語っているか、読み取ってください。これから皆さんが自分と総政をどのように語るかが、総政の未来を左右します。皆さんにも、多くの人に総政の素晴らしさを語り続けてほしいと願っています。